

シラバス

指定番号 第23001039号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (1) 職務の理解 | | | |
|--------------------|--|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 介護が目指すべき「その人らしい生活を支えるケア・サービス」のあり方について、介護職（受講生自身）がどのような役割を担うかを知り、以降の研修に取り組めるようになる。 ② 介護の専門性について理解し、専門職としての自信と誇りを持って仕事に取り組んでいく必要性について理解する | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 多様なサービスの理解 | 3 | 3 | 0 | ○講義 ・本研修の目的について説明する。 ・介護は病気を治す医療とは異なり、「生活そのものを支援する」分野であり、それを「仕事（サービス）」として携わるとはどういうことなのかなどについて、テキスト及び講師の経験談などを基に、概説する。 ○演習 ・受講者も、既に介護の仕事に就いている者や、家族の介護を経験している者もいるなか、介護サービスにはどのような種類があるか、グループになって討議、情報交換。その内容をふまえて、講師が整理し、介護サービスにはいろいろあることに気づいてもらう。 |
| ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 | 3 | 0 | ○講義 ・上記の講義をふまえ、改めて介護サービスという仕事について、テキスト及び講師の経験談などを基に、より具体的に説明するとともに、どのサービスの種類に就くにしても、本研修で学ぶ「知識・技術・理念」がベースになることを認識してもらう。 ・介護の仕事にかかる資格には、「実務者研修」「介護福祉士」など更なるステップアップを図る資格があり、本研修および取得する資格がその「スタートライン」であることを伝える。 ○演習 ・訪問介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護など具体的な介護サービスとそこで働く介護職員を紹介しているDVD教材を視聴。介護の仕事について、より具体的にイメージをしてもらう。その上で、「生活を |

| | | | | |
|---------|---|---|---|--|
| | | | | 支援する」とは、具体的にどのような支援があるのかをグループで討議。その内容をふまえて、講師が整理し総括する。 |
| (合計時間数) | 6 | 6 | 0 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| | | | | |
|---------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 科目番号・科目名 | (2) 介護における尊厳の保持・自立支援 | | | |
| 指導目標 | ① 介護を行う上で、利用者の尊厳を尊重する必要性を理解する ② 自立支援の考え方を学び、納得したうえで利用者に対してのサービスを考えられるようになる ③ 人権の観点において意識を高めることができる | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 人権と尊厳を支える介護 | 5 | 1.5 | 3.5 | ○講義 ・本研修はまず、介護という生活を支援する上で、必要かつ重要な「理念」から学ぶことを受講者に伝える。 ・「人権と尊厳の保持」「QOL」「ノーマライゼーション」「虐待防止・身体拘束禁止」などについて、テキストに沿いながら、現場の具体的な事例などを交えて解説する。 ○演習 ・「介護サービスの利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由」についてグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。 |
| ② 自立に向けた介護 | 4 | 0.5 | 3.5 | ○講義 ・上記の講義に引き続き、介護サービスにおける大事な理念の一つである「自立支援」について、テキストに沿いながら、現場の具体的な事例などを交えて解説する。 ・介護では、そうなる手前での支援すなわち「介護予防」も大事であることを、テキストに沿いながら説明する。 ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| (合計時間数) | 9 | 2 | 7 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 第23000075

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (3) 介護の基本 | | | |
|----------------------|---|-----------|-----------|--|
| 指導目標 | ① 介護職の専門性の高さを意識し、かかわる人との連携をイメージすることができる ② 今後仕事に就くことを踏まえ、職業倫理を理解し意識できるようになる ③ 事故を防止するため観点を身につけ、危機意識の強い状態を保つことができる ④ よりよいサービスを提供するために、自分自身の心と体の安全を優先して考えられるようになる | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち通学学習時間数 | うち通信学習時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可) |
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 1.5 | 1.5 | 0 | ○講義 <ul style="list-style-type: none"> ・ここから、より一層、介護そして介護サービスそのものにかかる事柄を学ぶことを伝える。 ・ここまでの学習を振り返り、改めて「介護とは何か」ということについて、「介護環境の特徴の理解」という点から、テキストに沿いながら、現場の状況なども交えて説明する。 ・介護サービスという生活を支援するにあたっての「専門性」について、テキストに沿いながら、現場での実践例を交えて解説する。 ・介護サービスの利用者には、ケアマネジャーや医師、看護師、理学療法士など、介護職員以外にも、様々な職種が関わっていることを伝え、主な職種について、テキストに沿いながら紹介するとともに、現場でどのように連携しているかを説明する。 ○演習 <ul style="list-style-type: none"> ・上記の講義内容をふまえ、「家族による介護と専門職による介護の違い」について、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し総括。専門性を伴った介護サービスの提供とそのため学習の大切さを喚起する。 |
| ② 介護職の職業倫理 | 1.5 | 0.5 | 1 | ○講義 <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスにおける「職業倫理（法律による規定以前のものとして、守らなければならないこと）」について、接遇・マナー、モラル面の話題を提供するとともに、ここまで学習してきた理念も含んだ、テキストにある「日本介護福祉士会倫理綱領」などを紹介し、説明する。 |

| | | | | |
|-------------------------|-----|-----|---|---|
| | | | | ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 1.5 | 0.5 | 1 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスにおいて、「リスクマネジメント（利用者にふりかかる危険をいかに取り除き、安心・安全な生活が営めるように支援するか）」がとても重要であることを伝える。 ・転倒、誤嚥などの事故の予防と発生時の対応などについて、テキストに沿いながら、現場での事例などを交えて説明する。 ・インフルエンザやノロウイルスなど感染症の予防と発生時の対応などについて、テキストに沿いながら、現場での事例などを交えて説明する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| ④ 介護職の安全 | 1.5 | 0.5 | 1 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護職員のこころの健康管理」「介護職員のからだの健康管理」というタイトルのもと、介護職員にふりかかる「腰痛」や「もえつき」とその予防などについて、テキストに沿いながら、講師の体験談などを交えて説明する。また、仕事に就いてからも、先輩などからアドバイスを受けながら、体調にはくれぐれも気をつけていくことを助言する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 | | | |
|----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 介護保険制度の上にサービスが成り立っていること、国の目指す方向を理解できる ② 他職種連携の観点での医療分野との連携、分担を理解できる ③ 介護保険制度と合わせて障害者を持つ人を取り巻く環境と支援についても理解できる | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護保険制度 | 0.5 | 0.5 | 0 | ○講義 ・介護の仕事には、「法律（制度）」の知識が必要であることを伝え、法律（制度）という「ルール」の存在とその意義について概説する。 ・介護サービスにかかる最も重要な「介護保険制度」について、「創設の背景と目的、制度改正などの動向」「要介護認定やケアマネジメントを含めた制度のしくみ」「介護報酬とその財源」「介護保険が対象とする介護サービスの種類」「サービスを提供する事業者・施設」などについて、テキストに沿いながら解説する。 |
| ② 医療との連携とリハビリテーション | 4.0 | 0.5 | 3.5 | ○講義 ・これまでの講義（介護の基本）でもふれた、「介護における医療との連携」について、改めてテキストに沿いながら説明する。 ・介護職員が携わることができない「医行為（医療行為）」の確認と、生活を支援する介護との線引きなどについて、テキストに沿いながら解説する。 ・「リハビリテーション」について、その言葉に含まれる理念や、具体的な対応内容などについて、テキストに沿いながら説明する。 ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| ③ 障がい者総合支援制度およびその他制度 | 4.5 | 0.5 | 4 | ○講義 |

| | | | | |
|---------|---|-----|-----|--|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を主な対象とする介護保険制度に対して、若年の障害をもつ者には、障害者自立支援制度が適用されることを説明する。 ・ 障害者自立支援制度のうち、介護サービスに直接かわる「障害者総合支援法」について、テキストに沿いながら解説する。 ・ 介護保険制度や障害者総合支援法の他にも、生活保護法や成年後見制度、高齢者虐待防止法など、介護サービスの利用者に関わる法律がいろいろあることを、テキストに沿いながら概説する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| (合計時間数) | 9 | 1.5 | 7.5 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (5) 介護におけるコミュニケーション技術 | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 介護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、自分の特性を理解しながら、様々な手法を理解できている。 ② チームでのコミュニケーションを円滑に進めるために、記録を含めた方法を理解できている | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護におけるコミュニケーション | 2.5 | 2.5 | 0 | ○講義 ・介護サービスの仕事を続けていくためには、経験を積み、それを学習により裏付け、身につけていかなければならない「技術」があり、その一つが「コミュニケーション技術」であることを伝える。 ・「介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割」「コミュニケーションの技法」「道具を用いたコミュニケーション」「利用者・家族とのコミュニケーションの実際」「両者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際」という点から、テキストに沿いながら、現場での実践例も交えて説明する。 ○演習 ・利用者の状態・状況による対応を理解するため、受講者が2人一組で、それぞれ利用者役と介護者役となり、ロールプレイングによるコミュニケーション技術を体験する。それを受けて、講師が助言し総括。コミュニケーション技術は、現場でも意識して磨いていく必要があることを喚起する。 |
| ② 介護におけるチームのコミュニケーション | 3.5 | 0.5 | 3 | ○講義 ・上記のコミュニケーション技術に加えて、「記録の技術」も身につける必要があることを伝え、テキストに沿いながら、そのポイントを説明する。 ・「記録による情報の共有」「介護サービスにおける報告、連絡、相談」「コミュニケーションを促す環境(介護サービス現場の会議など)」というタイトルのもと、記録なども活かした職員間のコミュニケーションも、利用者に適切な介護サービスを提供し続けていくためには必要であることを、現場の実践例も交 |

| | | | | |
|---------|---|---|---|---|
| | | | | えて説明する。 ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (6) 老化の理解 | | | |
|----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--|
| 指導目標 | ① 介護を行うにあたって、高齢者のこころとからだの変化を理解できている ② 介護現場でよく目の当たりにする病気や症状を理解し、高齢者と接するための基礎知識を付ける | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 2.5 | 2.5 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護サービスでは、利用者一人ひとりの介護の原因となっている老化の程度や、病気・障害の特性をふまえた生活を支援していく。そのためには、老化や病気・障害の「知識」が必要であることを伝える。 「老化に伴うこころとからだの変化」「老化に伴うこころとからだの変化と日常生活」というタイトルのもと、老化によって人の心や体はどのようになるのかを、老化に伴う転倒や脱水、低栄養などの出来事とその予防などにかかる対応方法も含め、テキストに沿いながら、現場の事例なども交えて説明する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> 「加齢・老化に伴う心身の変化」について、グループで整理する。グループからの発表を受けて、講師が補足し総括。老化は、私たち（受講者）一人ひとりの心身にもみられる身近なテーマであり知識であることにも気づいてもらい、今後とも理解と関心を高めることを助言する。 |
| ② 高齢者と健康 | 3.5 | 0.5 | 3 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の講義に続き、「高齢者と健康」「高齢者に多い病気と日常生活上の留意点」というタイトルのもと、老化によって発症し、介護の原因となる様々な病気について、その原因や症状、残る障害とそれに対する医療（治療）・リハビリテーション、そして介護（生活支援）における対応方法などについて、テキストに沿いながら、現場の事例なども交えて説明する。 病気・障害については、脳血管疾患や関節リウマチ、パーキンソン病、骨粗鬆症、変形性関節症など、介護保険制度の特定疾病にも含まれているような、現場で多くみられるものを中心に説明する。 |

| | | | | |
|---------|---|---|---|--|
| | | | | ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (7) 認知症の理解 | | | |
|-------------------------|---|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 現在介護現場ではずすことのできない認知症ケアの基本的な考え方を理解できている ② 認知症という病気・障害を学び、適切なケアについてイメージができている ③ 認知症によって及ぼされる症状を知り、ケアをする上での注意点が身についている ④ 家族にかかる負担を知り、家族を含めてのケアを意識できるようになる | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 認知症を取り巻く状況 | 1.5 | 1.5 | 0 | ○講義 ・上記の講義（老化の理解）では、介護の原因となる「体」の病気・障害を多く学んだが、ここでは「心」の病気・障害として、現場で多くの利用者が患っている「認知症」について学ぶことを伝える。 ・「認知症ケアの理念」というタイトルのもと、認知症の利用者の生活を支援する上での考え方、方針などについて、テキストに沿いながら、現場の事例などを交えて説明する。 ○演習 ・上記の講義をふまえ、DVD教材を活用して、実際の認知症の利用者を紹介するとともに、どのような対応が望ましいか、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。 |
| ② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 1.5 | 0.5 | 1 | ○講義 ・「認知症の概念」「認知症による障害」「健康管理」というタイトルのもと、認知症という病気・障害と、それに伴う健康管理面について、テキストに沿いながら、現場の事例などを交えて説明する。 ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 1.5 | 0.5 | 1 | ○講義 ・上記の講義に続き、認知症による障害を、中核症状、周辺症状と分けて、テキストに沿いながら、現場で |

| | | | | |
|----------|-----|-----|---|--|
| | | | | <p>みられる状況も交え、より詳しく説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の各種症状への対応方法やコミュニケーションのとり方などについて、現場の実践例を交えて説明する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| ④ 家族への支援 | 1.5 | 0.5 | 1 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の介護は、自宅で介護する家族にとっては、心身への相当の負担があることを、テキストに沿いながら、現場の事例なども交えて説明する。 ・家族の負担軽減を目的に、家族のレスパイト（休養）という視点で、介護サービスが利用されることを解説する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------------------------------------|
| 使用する機器・備品等 | (株)ジャパン通信情報センター 観て聴いて感じ取る認知症ケア 第1巻 |
|------------|------------------------------------|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (8) 障がいの理解 | | | |
|--|---|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 障がいについて総合的に学ぶことで、ケアをする相手が障がい者になった場合でも混乱がでない ② ケアをするにあたっての障がいの医療面での注意点が理解できている ③ 家族に対するケアの重要性も理解ができている | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 障がいの基礎的理解 | 1.5 | 0.5 | 1 | ○講義 ・これまでの講義（老化の理解、認知症の理解）が、主として介護保険制度下のサービスの利用者を想定いたのに対して、この講義では、主として障害者総合支援法の利用者（身体障害、精神障害、知的障害、発達障害など）にかかる学びであることを伝える。 ・「障害の概念」というタイトルのもと、改めて「障害」とは何かを、テキストに沿いながら説明する。 ・利用者一人ひとりの障害に応じた、自立支援の理念に基づく生活を支援するにあたり、利用者の生活とそこに伴う障害をとらえるための死視点といえる「ICF（国際生活機能分類）」について、テキストに沿いながら解説する。 ・高齢者分野よりも歴史が長く、ノーマライゼーションなどこれまで学んだ理念の発祥分野でもある「障害者福祉」について、改めてその基本的な理念などについて、テキストに沿いながら確認する。 ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| ② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 1 | 0.5 | 0.5 | ○講義 ・介護の原因となる身体障害（視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害など）、知的障害、精神障害、発達障害などについて、その原因となる病気や事故（あるいは原因不明であることも多いこと）、症状、治療・リハビリ、介護（生活支援）における対応方法などについて、テキストに沿いながら説明する。あわせて「障害の受容」という、障害者の気持ちを理解するためのポイントについても解説する。 |

| | | | | |
|-------------------|-----|-----|-----|--|
| | | | | ※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備 |
| ③ 家族の心理、かかわり支援の理解 | 0.5 | 0.5 | 0 | ○講義 ・若年の障害者を何十年と介護する家族について、その状況や心理、家族への支援のあり方などについて、テキストに沿いながら説明する。 |
| (合計時間数) | 3 | 1.5 | 1.5 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (9) こころとからだのしくみと生活支援技術 | | | |
|-----------------------|---|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 専門的視点をもった関りこそが、求められる介護サービスの専門性であることを理解する ② 介護をするにあたっての利用者のこころの仕組みを理解し、ケアをするにあたっての基礎知識を付ける ③ 介護をするにあたっての利用者のからだの仕組みを理解し、ケアをするにあたっての基礎知識を付ける ④ 介護職員として、利用者の自立支援をするための生活支援技術を学びイメージを付ける ⑤ 利用者一人ひとりが自分らしく生きていくことができる環境を主観だけでなくイメージできるようになる ⑥ 装うことや整容の意義について理解し、整容に関する基礎知識・支援技術の基本を知る ⑦ 繰り返し移動移乗の実技を行い根拠を理解したうえで、お一人おひとりの身体状況に合わせた、介助の必要性を理解したうえで、実行できる ⑧ 安全な食事介助を行なうことができる。 ⑨ 入浴、清拭介助方法を理解し、羞恥心に配慮した介助が分かる ⑩ 羞恥心に配慮し、尊厳ある排泄介助を行うことができる ⑪ 睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を理解し利用者に合わせて考えることができる ⑫ 利用者本人に加え利用者や家族への理解を深め、終末期ケアにおける介護職の対応が具体的にイメージできる ⑬ 介護過程の基本的な流れについて理解する ⑭ 事例を基に、生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を理解する | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護の基本的な考え方 | 4.5 | 4.5 | 0 | ○講義 ・「理論と法的根拠に基づく介護」というタイトルのもと、ここまで学んできた「介護とは何か」について、改めて確認する。 ○演習 ・上記の講義、及び初日からの講義をふまえ、適切なサービス提供のために必要な視点や理論や根拠にはどのようなものが考えられるか、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。 |
| ② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3 | 0.5 | 2.5 | ○講義 ・老化や病気・障害の特性をふまえた介護（生活支援）には、老化や病気・障害を宿す「人間の心と体のし |

| | | | | |
|-----------------------|-----|-----|-----|---|
| | | | | <p>くみ」の理解が不可欠であることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の心のしくみである「学習と記憶」「感情と意欲」「自己概念と生きがい」「老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因」などについて、テキストに沿いながら解説する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 3 | 0.5 | 2.5 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の「心」に関する学習に続いて、人間の「体」のしくみとして、「人体の各部の名称と動き」「骨・関節・筋」「中枢神経系と末梢神経系」「自立神経と内部器官」などについて、テキストに沿いながら解説する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| ④ 生活と家事 | 2.5 | 0.5 | 2 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスの介護職員は、ここからとらえる「生活支援技術」を駆使して、利用者一人ひとりの生活とその自立を支援していることを伝える。 ・「家事援助」に関する知識と、支援のポイントを、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて解説する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| ⑤ 快適な居住環境整備と介護 | 2.5 | 0.5 | 2 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人」だけで対応すると負担が伴う介護を、いかに「物（福祉用具、住宅改修など）」で支援するか、という視点が大事であることを伝える。 ・「快適な居住環境」「高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法」というタイトルのもと、高齢者などの特性をふまえた、福祉用具や住宅改修なども活用した住まい環境の整備について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて解説する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |

| | | | | |
|---|-----------|-----------|----------|--|
| <p>⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>7</p> | <p>7</p> | <p>0</p> | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここから先は、ADL（日常生活動作）すなわち生活場面ごとの「生活支援技術（自立度に応じた身体介護技術）」を練習し、身につけていくこと視野に入れた演習を含むことを伝える。また、生活支援技術も、コミュニケーション技術などと同様、現場でも常に意識して経験を積み、技術の根拠となる知識や考え方などを学び続け、身につけていくものであることを助言する。 ・「整容」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、洋服や浴衣を用い、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた着脱方法を考え、その実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。 |
| <p>⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>13</p> | <p>13</p> | <p>0</p> | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移動・移乗」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。 ・さまざまな移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。 ・介護職員にとっての負担の少ない移動・移乗の支援方法について助言する。 ・「移動と社会参加の留意点と支援」というタイトルのもと、移動や外出とその自立の大切さなどを、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすや杖を用い、受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた移動・移乗方法の方法を考え、その実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。 |
| <p>⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>7</p> | <p>7</p> | <p>0</p> | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食事」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。 ・「食事環境の整備」「食事に関連した福祉用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ」などのタイトルのもと、食事にかかる様々な事柄について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて解説する。 ・「楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」「食事と社会参加の留意点と支援」とい |

| | | | | |
|------------------------------------|-----|-----|---|---|
| | | | | <p>うタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</p> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、持参したお弁当を用い、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた食事方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。 |
| ⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 7 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入浴、清潔保持」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。 ・さまざまな入浴・清潔保持のための方法について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 ・「楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」というタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易浴槽やお湯やタオルを用い、受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。 |
| ⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 7 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「排泄」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。 ・「爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」というタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレやおむつを用い、受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた排泄方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。 |
| ⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 3.5 | 3.5 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「睡眠」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法について、テキストに沿いながら説明する。 ・「快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」というタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 |

| | | | | |
|-------------------------------|-----|-----|---|--|
| | | | | <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、ベッドを用いて、提示した事例（利用者）について、ベッドメイキングや体位変換など利用者の自立に向けた睡眠方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。 |
| ⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 4.5 | 4.5 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）や特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム等）など、介護サービスの種類によっては、死にゆく利用者の生活支援（終末期の介護）に、医療・看護等の職種と連携しながら関わることがあることを伝える。 ・「終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ」「死に向き合うところの理解」「苦痛の少ない死への支援」などのタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の事例なども交えて説明する。 <p>※添削課題の出題範囲。この項目については自宅学習で習得ができるように教科書の該当ページとそれに対応した出題を準備</p> |
| ⑬ 介護過程の基礎的理解 | 3.5 | 3.5 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスは、一般的にPDCAサイクル（物事は計画的に実施し、やりっぱなしにせず、その後の実施状況を点検し、必要に応じて改善していく）という、一定の展開プロセスに基づいて提供し、介護分野ではそれを「介護過程」と表現することを伝える。 ・介護過程について、「介護過程の展開」というタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程のプロセスの中で根拠のある支援とは何か、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し、総括する。介護の仕事は、他のあらゆる仕事と同様、PDCAサイクル（介護過程）であり、このプロセスの中で、上司からの指示を受けてサービスを提供し、必要なことは上司に報告・連絡・相談するという、あたり前の仕事として、とらえてもらうことを助言する。 |
| ⑭ 総合生活支援技術演習 | 7 | 7 | 0 | <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者に、4つの具体的な事例を提示。初日からここまでの講義や演習で学んだ「知識・技術・理念」をふまえて、望ましい介護のあり方について検討してもらう。講師は、受講者一人ひとりの、本研修に |

| | | | | |
|---------|----|----|---|--|
| | | | | <p>おける最終的な理解度を、評価する。</p> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の具体的な事例を示し、「介護過程」の展開方法をグループで討議。ここまで練習してきた「生活支援技術」を駆使した実技を演習する。講師は、受講者一人ひとりの、生活支援技術の習得度を、評価する。 |
| (合計時間数) | 75 | 66 | 9 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|

シラバス

指定番号 第23000075号

商号又は名称:株式会社ベネッセスタイルケア

| 科目番号・科目名 | (10) 振り返り | | | |
|--------------------------|---|-----------------------|-----------------------|---|
| 指導目標 | ① 研修全体を振り返り、介護専門職であることを再認識する ② 就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学 習 時間数 | うち 通信学 習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ④ 振り返り | 2 | 2 | 0 | ○講義 ・「研修を通して学んだこと」「利用者の自立を支援する介護のあり方」「利用者の状態像に応じた介護と介護過程」「身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性」「チームアプローチの重要性」などのタイトルのもと、本研修で学んできた、介護や介護サービスにかかる「知識・技術・理念」について、おさらいする。 ○演習 ・介護職として重要な視点・姿勢についての要点を、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し、総括する |
| ⑤ 就業への備えと研修 修了後における実例 | 2 | 2 | 0 | ○講義 ・「介護職員として就業後も継続して学ぶべきこと」などのタイトルのもと、介護サービスに従事してからのあるべき姿について、伝達する。 ○演習 ・次のステップへ高めるため継続して学習・研鑽する課題について、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する |
| (合計時間数) | 4 | 4 | 0 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | |
|------------|--|